寺社Now

www.jisya-now.com

寺社の"いま"を伝える情報誌

vol.11

第2特集

インバウンドに向けた新たな観光サービス

～多様化する参拝客を迎え入れる寺社の試み～

クローズアップ

臨済宗大本山天龍寺 塔頭 永明院 住職

國友 憲昭

シリーズ：日本遺産と寺社

鳥取県三朝町 × 三徳山三佛寺

巻頭特集

シリーズ　知って活かす公的制度①

登録有形文化財建造物制度

～登録有形文化財の登録と活用メリット～

感動のそばに、いつも。

人をつなぐ、笑顔をつなぐ。
JTBは地球を舞台に、
あらゆる交流を創造し続けます。

巻頭特集

02 シリーズ　知って活かす公的制度①

登録有形文化財建造物制度

～登録有形文化財の登録と活用メリット～

06 第2特集

インバウンドに向けた新たな観光サービス

～多様化する参拝客を迎え入れる寺社の試み～

14 クローズアップ

臨済宗天龍寺派大本山天龍寺 塔頭　永明院 住職

國友 憲昭

18 シリーズ：日本遺産と寺社 Vol.1

鳥取県三朝町 × 三徳山三佛寺「六根清浄と六感治癒の地

～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」

10
TOPICS
多言語ガイドからデジタルサイネージまで
寺社向けの新たな観光サービスを実現する ICT

13
職人技
京都　美山茅葺株式会社

19
活性人
株式会社朱鷺書房　代表取締役
嶝 牧夫

20
トレンド Now
下鴨神社とチームラボが初コラボ
世界遺産が光のアート空間に

伊奈波神社と老舗米菓子製造会社が
奉納塩を使ったクッキーを発売

21
行政・観光リポート
観光地域づくりの舵取り役として期待される
日本版 DMO 候補法人に「知多半島観光事業
協会」が登録

22
うちのお宝
埼玉・天台宗星野山 喜多院　五百羅漢
埼玉・箭弓稲荷神社　箭弓稲荷神社の社殿

24
全国寺社イベント
曹洞宗・夏期大学講座「禅といま」

25
和空 presents 宿坊運営ノート
身延山東谷 日朝大上人霊跡　行学院 覚林坊

26
寺社旅研究家　堀内克彦　宿坊研究会レポート 09
寺社や宿坊が木造建築普及の担い手に

27
特別連載②
数多くの寺社が集まる下寺町に宿坊を開設
地域との連携が不可欠な
『宿坊創生プロジェクト』

28
野田博明　風まかせ 11
昇る狭霧やさざなみの志賀の都よ
いざさらば

30
四季巡り　華景色②
毘沙門堂の紅葉

32
アンケート

表紙写真：三徳山三佛寺　投入堂

巻頭特集　シリーズ 知って活かす公的制度①

「登録有形文化財建造物制度」

～登録有形文化財の登録と活用メリット～

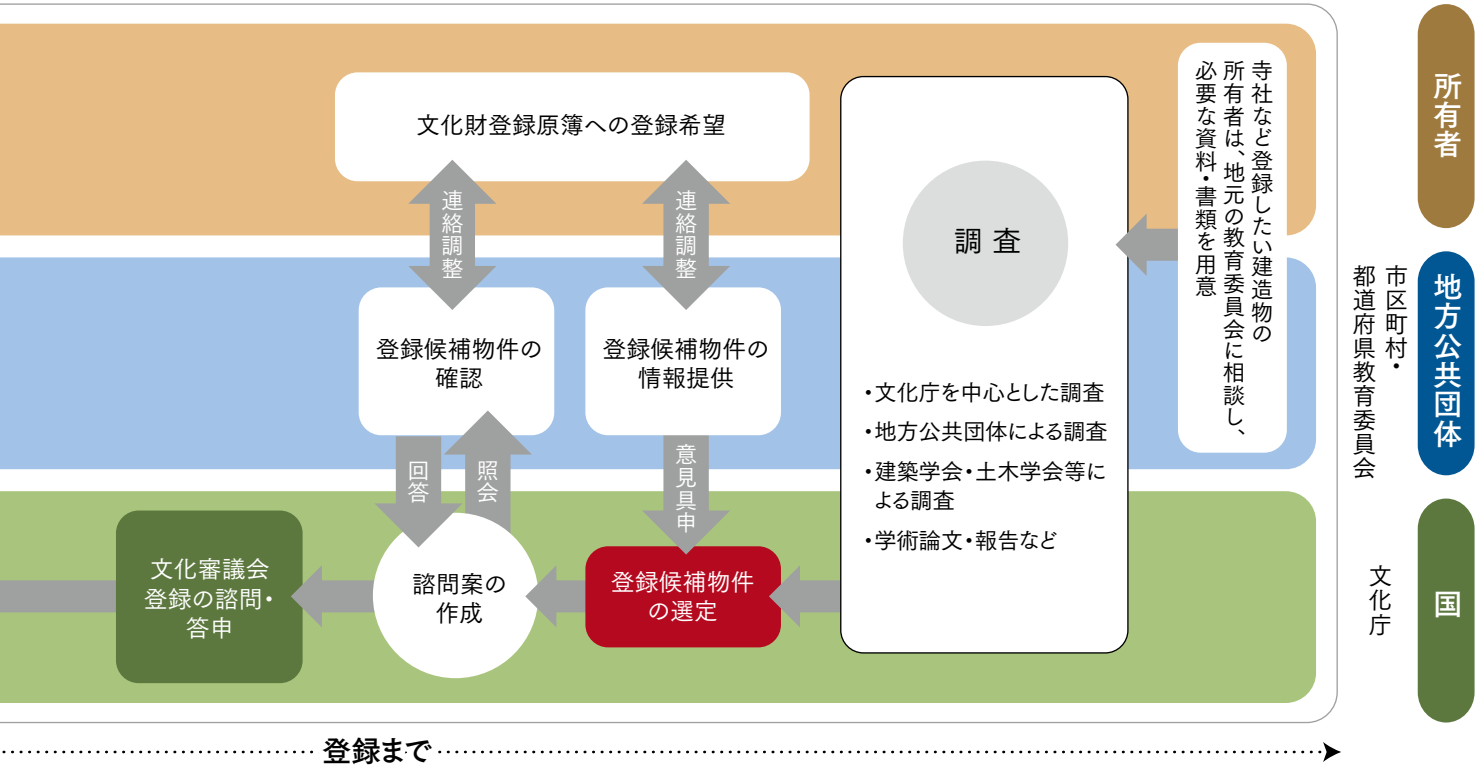
補助などが受けられる寺社向けの公的な制度をシリーズで紹介していく
本特集の第１弾は「登録有形文化財建造物制度」。
「登録有形文化財」の登録までの流れ、「登録有形文化財（建造物）」に登録された寺社を
地域活性の拠点として活用している事例を紹介する。

文化庁が推進する『登録有形文化財建造物制度』とは？

近年の国土開発や都市計画の進展などにより、消滅の危機に晒されている文化財建造物が多くある。重要文化財、登録有形文化財など、各種文化財にはそれを公的に保護し、活用するための補助制度がある。（表①参照）それらの制度を正しく理解することで、大切な文化財の保護にも繋がる。

たとえ身近な建造物であっても、古くから地域に親しまれているものや時代の特色をよく表したもの、復原が難しいものなどは、貴重な文化財といえるだろう。この文化財建造物を守って地域の資産として活かすため、1996（平成８）年に施行されたのが『文化財登録制度』だ。

有形文化財のひとつである「登録有形文化財建造物」は、築50年を経過した歴史的建造物のうち、一定の評価を得たものを文化財として登録することができる。重要文化財が国の指定によるものであるのに対し、登録有形文化財は届出制という緩やかな規制を通じて保存が図られ、制度が誕生してから現在までに全国で１００００件を



表②＜登録までの流れ＞　『登録有形文化財建造物制度のご案内　建造物を地域と文化に』（文化庁）より

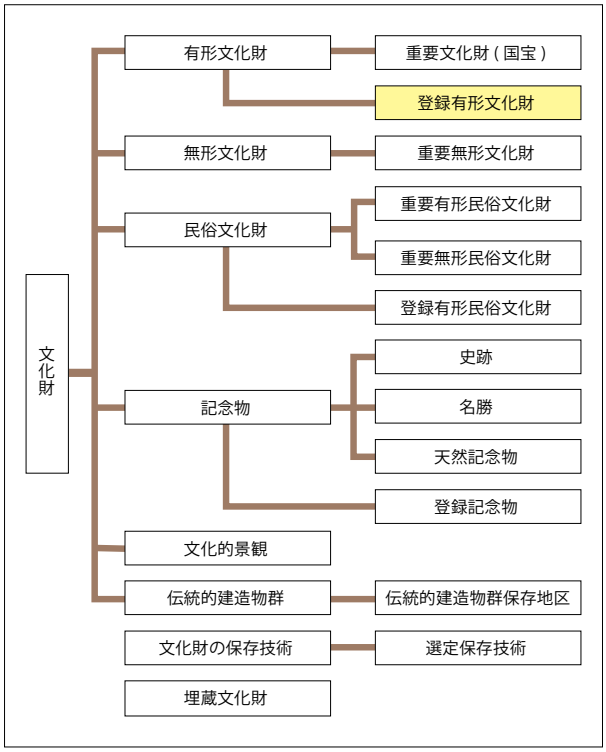
超える建造物が登録されている。今後もこの制度を利用して多くの建造物が保存され、町づくりや観光などに有効的に活用されることが期待されている。

登録有形文化財の登録基準とは？

登録の基準は、原則として建設後50年を経過したものであることの他、①「国土の歴史的景観に寄与しているもの」②「造形の規範となっているもの」③「再現することが容易でないもの」とされている。①の例としては高龍寺本堂（北海道）、飛騨川にかかる白川橋（岐阜県）、②は名古屋大学豊田講堂（愛知県）、沖縄市立ふるさと園旧久場家住宅主屋（沖縄県）、③は朝日小学校円形校舎（三重県）、五助堰堤（兵庫県）などがある。

高龍寺本堂（北海道）（写真協力:函館市教育委員会）

表①<文化財の種別>



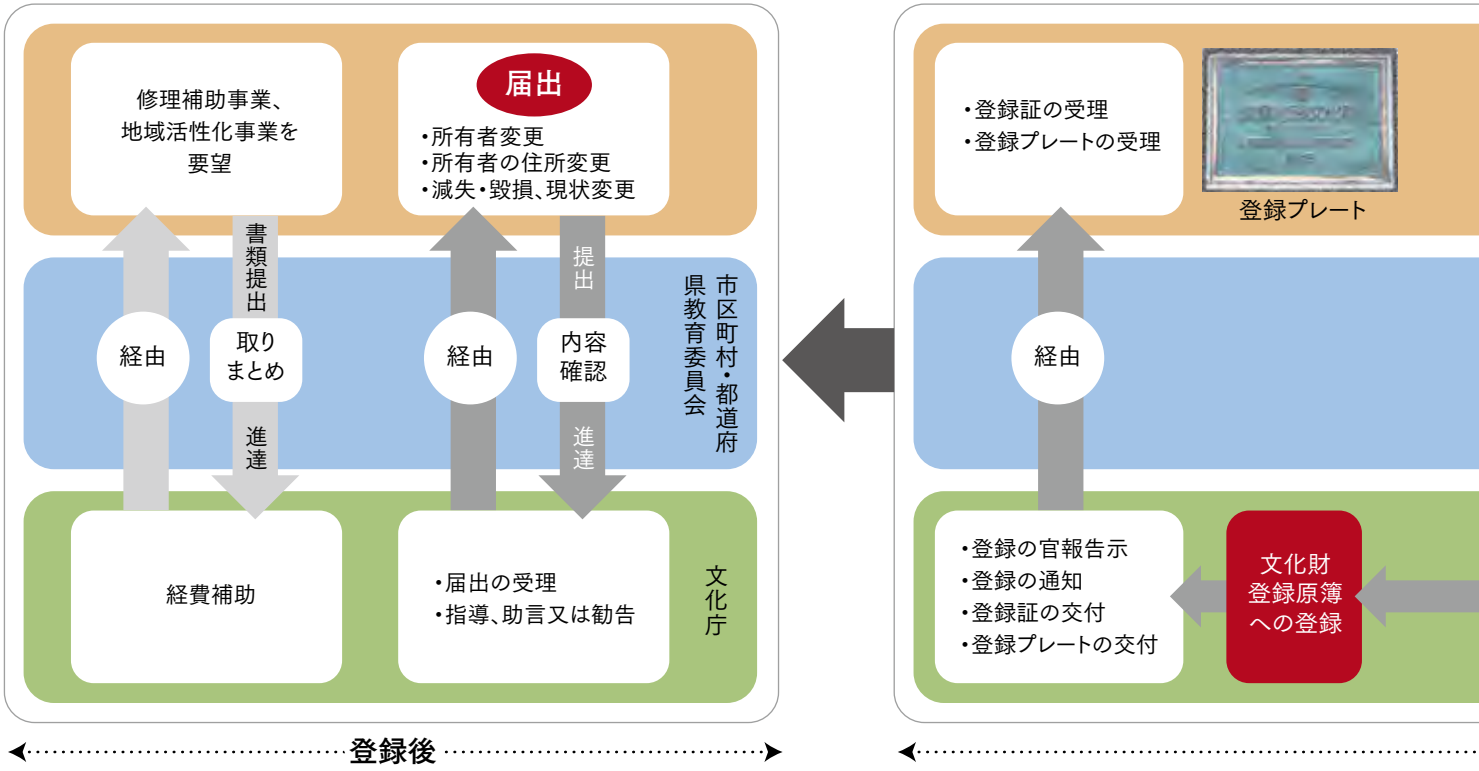
登録有形文化財の申請手順

登録の手順については、まずは地元の教育委員会に相談し、必要な資料・書類を用意。文化庁の調査を経て、文化審議会で認められれば晴れて登録有形文化財に、というのが大まかな流れとなる。（表②参照）

登録後、屋根を変える、外壁を変えるなど間取りを変えるという場合、現状変更として届出が必要となる。また、非常災害のためなど必要な応急措置についての届出は必要ない。現状変更の場合は事前に、滅失・毀損の場合は速やかに届出を行わなければ罰則が課せられる場合もあるので注意したい。

<登録の基準>

①国土の歴史的景観に寄与しているもの
②造形の規範となっているもの
③再現することが容易でないもの



登録有形文化財に登録するメリット

登録有形文化財制度では、文化財建造物を様々な用途に活用できる点が大きなメリットといえる。今まで通りに使うことはもちろん、事業資産や観光資産としての利用も可能。外観が大きく変わる場合や移築の際には現状変更の届け出が必要となるが、登録することで規制などに強く縛られることはない。例えば内部を一部改装し、ホールやレストラン、資料館などとして活用するのもかまわない。事業の展開や観光のために積極的に活用しながら、文化財としても緩やかに守ることができ、修理や管理については文化庁に技術的なアドバイスも求めることもできる。

＜登録有形文化財建造物の優遇措置＞

【登録有形文化財建造物修理補助事業】
保存・活用に必要な修理等の設計監理費の2分の1を国が補助

【登録有形文化財建造物を活用した地域活性化事業】
地方公共団体などが行う地域活性化事業にかかる費用の2分の1を国が補助

【相続税】
相続財産評価額（土地を含む）を10分の3控除（国税庁通達）

【固定資産税】
家屋の固定資産税を2分の1に減税（地方税法）

寺社でも参考にしたい魅力的な活用例を2つ紹介しよう。1919（大正8）年に建設された酒造場施設『世嬉の一酒造場』（岩手県）は、建物を地域の伝統文化の継承に役立たせたいという所有者の意向により、博物館や郷土料理店として利用されて話題に。広い内部空間を活かし、結婚式や会合などにも使われているという。NPO法人佐賀県CSO推進機構が管理・活用を行っている深川家住宅（佐賀県）では、近隣に点在する登録文化財と連携したイベントを企画しているほか、文化財を紹介する観光ボランティアガイドの育成にも注力。この空間を利用して大学生ボランティアによる本の読み聞かせなど、地域の団体とコラボしたユニークな取組も好評を博している。

修理の補助、地域活性化事業を補助する優遇措置も

登録有形文化財を保存・修理する場合などには、設計監理費の一部を補助する制度もある。「登録有形文化財建造物修理補助事業」は、地域の歴史的景観を活かしたまちづくりのための建造物の保存修理に活用できる。

總持寺祖院（石川県）の白山殿は、明治の大火での罹災を免れた境内で最古の建造物。しかし、2007（平成19）年の能登半島地震で大きく破損したために、登録有形文化財建造物修理補助事業の適用を受け復旧修理が行われた。その際の詳細な調査によって、これまで知られていなかった建物の来歴についても、さまざまな情報が得られたという。

また、地方公共団体等が所有する登録有形文化財を公開活用して地域活性化を促進するため、保存活用計画の策定や設備整備、耐震対策などを行う場合も、その事業費用の一部が補助される。戦後モダニズムの巨匠・丹下健三が設計し、1957（昭和32）年に完成した墨会館（愛知県）は、地域活性化事業の一環として当初の意匠を残しながら柱を補強する耐震補強工事を実施。併せてスロープの設置などバリアフリー化も行い、以前にも増して地域に開かれた施設へと変わった。館内には建物に関する情報も充実しており、建築に興味のある人が多く訪れ注目されている。こういった事例は寺社でも活用できるのではないだろうか。

修理復旧後の白山殿（撮影:atelierR 畑亮）

地震で破損した白山殿

石川県の總持寺祖院白山殿　平成19年の能登半島地震で大きく破損したが、登録有形文化財建造物修理補助事業の適用を受け復旧修理が行われた

登録有形文化財の活用事例

登録有形文化財と歴史的町並みを活かした貝塚寺内町の取り組み

大阪府貝塚市にある貝塚寺内町では、紀州街道に沿った地域の歴史と伝統を守りながら、地域の活性化とより良い住環境の創造を目指し、「まちの整備計画の素案づくり」に取り組んできた。同町は、室町時代末期に貝塚御坊 願泉寺（重要文化財）を中心に形成された寺内町。当時のまちわりと共に、2008（平成20）年、境内にある12の建物が登録有形文化財に登録された感田神社をはじめ、江戸時代後期から昭和にかけての町家12ヶ所も登録有形文化財に登録されていて、寺内町当時のまちわりの景観がよく残されている。寺社独自の取り組みとしては感田神社では、登録有形文化財の参集殿で定期的に「感田神社寄席」を開催し、毎回100名ほどの観客を集めている。また願泉寺では、市教育委員会とともに小学4年生から6年生を対象に願泉寺宿泊体験を開催。お寺のお掃除や食事作りとともに寺内町を探検し、貝塚の歴史や文化に触れる体験イベントを実施している。これらは内外から人々が集まるイベントとして、その注目度を高めている。

貝塚市教育委員会教育部長の前田浩一さんは「寺内町地域は、貝塚市の中心市街地としての性格を併せ持っています。指定・登録文化財建造物をはじめ、地域に残る歴史的遺産を効果的に活用することが、貝塚市の活性化につながると考えています」と文化財活用の有効性について語ってくれた。

多くの可能性を有す登録有形文化財

このように登録有形文化財建造物制度は、アプローチや利用の仕方によっては、周辺地域の活性化に大きな利益をもたらす可能性がある。地域住民との絆を深めるという意味においても、文化財を活かした地域コミュニティづくりを検討してみる価値は、十分にあるといえる。さらに重要文化財や国宝への指定となれば、注目度も高まり、その活かし方は広がる。文化財保護法に基づき保存修理や防災施設の設置、公開施設の整備に対し補助金交付の対象となる。災害時の備えとなるだけでなく、寺社の文化財建造物を後世に幅広く継承していくためにも、この制度をうまく活用してもらいたい。

また、今回は文化財建造物を中心に紹介したが、登録有形文化財には仏像などの美術工芸品も含まれる。これについては今後、国宝・重要文化財、文化財保護法に関する特集で紹介する予定。次号では文化庁の文化財に関する補助金など、各種助成金について紹介したい。

【取材協力】文化庁 文化財部建造物担当／大阪府貝塚市教育委員会

登録有形文化財についての参考サイト

<文化庁>
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/yukei_kenzobutsu/

<参考資料>
文化庁 文化財部参事官（建造物担当）発行『登録有形文化財建造物制度のご案内 建造物を地域と文化に』（2105年1月）

1

2

3

4

5

1.境内の12の建物が登録有形文化財に登録された感田神社の神門

2.感田神社の参集殿。この建物も登録有形文化財に登録されている

3.感田神社の登録有形文化財登録プレート

4.寺内町に中心となる願泉寺の本堂。重要文化財に指定されている

5.願泉寺で8月29日・30日に行われた子供たちの宿泊体験イベントの様子

室生寺

長谷寺

第2特集

インバウンドに向けた新たな観光サービス

～多様化する参拝客を迎え入れる寺社の試み～

増加し続ける外国人旅行者 政府は新たな目標を設定

東京都内の慢性的なホテル不足、大型テーマパークに殺到するアジア人―。このようなニュースが少し前からメディアで頻繁に報道されていることからもわかるように、近年、日本を訪れる外国人旅行者（＝インバウンド）が急速な勢いで増えており、毎年新記録を更新し続けている。

２００３（平成15）年、時の小泉政権が、訪日外国人旅行者を倍増の１０００万人に増やすという数値目標を掲げた『観光立国』宣言とともに、訪日観光を多角的に推進する『ビジット・ジャパン・キャンペーン』を開始。政府が目標とする１０００万人の大台を初めて突破したのが、２０１３（平成25）年だった。これを受け、２０１４（平成26）年１月に開かれた政府の『観光立国推進閣僚会議』で安倍首相は「２０２０年の東京五輪という大きなチャンスを得た。これを追い風として（２０２０年の訪日外国人旅行者）２０００万人を目指していきたい」と発言。その後も外国人旅行者の数は予想をはるかに上回る勢いで増加し続け、２０１５（平成27）年には１９７４万人にまで到達した。

現状を踏まえ、今年３月に観光庁が発表した『明日の日本を支える観光ビジョン』では、２０２０（平成32）年の外国人旅行者数の新たな目標は、４０００万人にまで引き上げられている。この結果、日本における外国人旅行者の消費金額は２０１５（平成27）年の約3.5兆円から、２倍以上の８兆円に増加する見通しだ。政府では観光を地方創生への切り札、ＧＤＰ６００兆円達成への成長戦略の柱と位置付けている。そんな中、寺社においても、民間企業と連携し今までとは違った新たなサービスの創造・提供が不可欠となりつつある。多様化する参拝客を迎えるための取り組み事例を紹介したい。

【ＣＡＳＥ①】「奈良大和四寺巡礼」

奈良県中部の四寺院が『奈良大和四寺巡礼の会』を発足

このように増加の一途をたどる外国人旅行者に向けて、新

安倍文殊院

岡寺

たなサービスを創造・提供する取り組みが全国各地で進められており、むろん寺社にもその動きは着実に波及している。代表的な一例として挙げたいのが、2015（平成27）年5月、奈良県中央部に位置する長谷寺、室生寺、岡寺、安倍文殊院によって発足された観光客向けのオリジナルプログラム『奈良大和四寺巡礼』だ。

このプログラムは、各寺院で巡礼衣に御朱印をされる方へ巡礼衣をプレゼントしたり、「結縁散華4枚セット」の授与がついた奈良大和四寺巡礼個人共通拝観券（1枚2200円）の販売、団体客には各寺院の僧侶からの説明などが加わるおもてなし、海外からの団体には、国家資格を取得した通訳案内士が無料でバスに添乗するなどの特典、Wi-Fiを利用した境内案内サービスといった多彩な内容となっている。

奈良県中部まで訪れてもらえる受け皿をつくりたいという想い

由緒ある地に創建された四寺はいずれも1200年以上の歴史を誇り、本尊および中尊は全てが国宝・重要文化財に指定されている。いずれ劣らぬ名刹であるにも関わらず、奈良市など県北部にある寺社と比較すると訪れる外国人旅行者は少なく、認知度もまだまだ低いのが現状だ。国が誇る貴重な名宝や、季節の花々が咲き誇る自然豊かな境内をより多くの外国人旅行者に楽しんでもらおうとの思いで四寺がつながり、『奈良大和四寺巡礼』はスタートした。呼びかけ人であり、事務局も担う安倍文殊院の植田俊應貫主は「この辺りは中南和と呼ばれ、奈良県のちょうど真ん中になります。観光客の多い奈良市や県北部からたった20㎞ほどなんですが、場合によっては1時間以上かかってしまうことあり、なかなか足を運んでもらう機会が少ないのが現状でした。それならば、中南和に直接訪れてもらえるような受け皿を作りたいという想いがつねづねありました。実はこの辺りは関西国際空港から1時間ほどで訪れることができます。ですので立地的には世界からかなり近いのではと考え、外国人旅行客の受け入れについても積極的に考えるようになりました」と語る。

四寺巡礼ロゴマーク

外国人参拝客へ向けたさまざまなサービスを提供

『奈良大和四寺巡礼』のホームページでは日本語に加え、英語、中国語繁体字・簡体字、韓国語、フランス語に対応しており、それぞれの言語で四寺院を紹介する映像を視聴することができる。また、各寺の受け付け周辺には無料で利用可能なFree Wi-Fiを設置しているため、タブレットなどの端末機でパンフレットをデータでダウンロー

Free Wi-Fiの表示とQRコード

ドできるうえ、境内（主要5箇所）ではQRコードを利用して、境内の案内画面を見ることができる仕組みも。このパンフレットや案内画面も前述の5カ国語に対応している。

『奈良大和四寺巡礼』ホームページ画面

料でバスに添乗し、各寺の歴史や文化をレクチャーするサービスを実施。「通訳案内士の報酬は四寺院がお支払いします。通訳案内士の方々には、各寺院の奥深いところまで理解してもらうため、各寺院で何度も研修を行っています。歴史や文化の魅力を紹介してもらうことはもちろん、通訳案内士の養成の一端も担えればと考えています。お寺というのはやはり文化を育て、継承する役目がありますので。こうした取り組みで四寺巡礼が盛り上がれば、それをきっかけに中南和にもたくさんの人々が訪れるようになると思うのです。いつかは『奈良市と同じくらいの観光客が訪れている』と言われるようになって欲しいですね」と植田貫主は話す。

「本当は同行してご説明するのが一番良いのですが、外国語が堪能なスタッフを雇うのにもかなり費用がかかります。とはいえ、せっかく訪れてもらった外国人旅行客の方々のためにも色々なハードルをクリアし、外国人は参拝料をクレジットカードで支払えるようにしました」と植田貫主。さらに事前予約した30名以上の団体の外国人旅行者には、希望があれば国家資格を取得した通訳案内士『奈良大和インタープリターチーム』が無

【お問い合わせ先】
奈良大和四寺巡礼の会

＜事務局＞
〒633-0054
奈良県桜井市阿部645番地
安倍文殊院　内
TEL. 0744-43-0002
http://www.nara-yamato.com/

【CASE②】増上寺コラボレーションルームプラン

増上寺×セレスティンホテル 海外も注目のスペシャルプラン

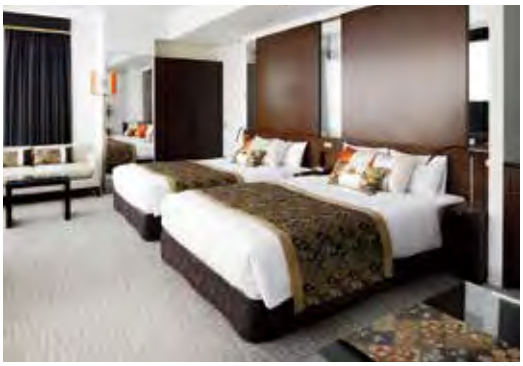
徳川家の菩提寺として名を馳せ、600年の歴史をもつ東京都港区の増上寺。本殿の背後に東京タワーがそびえる迫力ある景観でも知られており、東京観光名所の一つとして人気の高い同寺が協力し今年7月より、徒歩10分ほどのところにあるセレスティンホテルが『1日1室限定・コラボレーションルームプラン』の販売を開始した。

「日々忙しさに追われて心の静寂を求めている女性たちに、増上寺への参拝や写経などを通じて〝心のデトックス〟をしていただければ」という思いが込められているこのプラン。客室には『増上寺葵紋』が誇らしげに入ったテーブルランナーや湯呑みが用意され、和風デザインによる様々なファブリックアイテムでセンス溢れる装飾が施されている。

また、『お部屋で楽しめる写経セット（筆ペン付き）』や、同寺を代表する人気土産『起き上がり地蔵』、女性客に好評の『増上寺御朱印帳』が特典として付いており、宝物展示室の入場券、徳川墓所拝観券もプレゼントされるという。

このプランについて、増上寺参拝部参拝課 課長 吉田龍雄さんは「今回のプランはセレスティンホテルさん側からの提案でした。私どもからは生まれてこない視点での企画が面白く、また大きな強みであると感じられたことから、地域から見た増上寺の特色と魅力を協働して引き出したいという狙いがありました。今後はこのプランが身近に仏教を感じていただくための端緒となるべく、ご宿泊のお客様と増上寺が、より密な関係を醸成できる素地となる事を期待しています」と語る。

このように地域のホテルや、施設との連携は話題性を高めるという意味でも大きな効果があり、地域全体の活性化にも繋がる。それには柔軟な発想に加えて、民間企業との連携も重要となってくるだろう。



(上)『1日1室限定・コラボレーションルームプラン』のお部屋
(下)大本山 増上寺 大殿の外観

【お問い合わせ先】
セレスティンホテル
〒105-0014
東京都港区芝3-23-1
TEL. 03-5441-4111
http://www.celestinehotel.com/

【INTERVIEW】観光庁観光地域振興部　蔵持 京治さん

観光資源として、寺社へ期待する観光庁

観光庁観光地域振興部　蔵持 京治さん

2020（平成32）年の訪日外国人旅行者数の新たな目標が4000万人に大きく引き上げられた。引き上げられた経緯や、目標に対する観光庁としての方針などについて観光庁観光地域振興部 観光資源課長蔵持京治（くらもち きょうじ）さんにお聞きした。

編集部　はじめに、2020（平成32）年の訪日外国人旅行者数の新たな目標が4000万人に引き上げられた経緯や、目標に対する観光庁としての今後の方針をお聞かせ下さい。

蔵持課長　観光ビジョンの話を進めていくなかで出てきたのは『それでもまだ低い。もっと潜在能力としては高いんだ』という意見でした。世界の中で、観光振興に必要な要素というのものが4つあります。「自然」と「文化」、そして「食」と「気候」なんですね。この4つが揃っている国は世界的にも少なく、観光の魅力があって多くの観光客が訪れる可能性があります。日本は自然が豊かで、四季があって、食も美味しく、文化という意味でも深い歴史的な部分も多く、さまざまなコンテンツがあります。ですのでやはり『日本の潜在能力は高いんだ』と捉え、4000万人という数字を目指していくことになりました。

編集部　観光振興に必要な4つの要素の「文化」に寺社も含まれますが、観光資源としての寺社についてどのように考えておられるのかお聞かせ下さい。

蔵持課長　まさに代表格ですね。日本の各地域には千年以上続いている寺社さんが数多くあります。千年前からここでこういうお祭りがあるとか、こういう建物が残っているというだけで、外国人の方は素直に『素晴らしい』と感じるんですよね。現在、日本の各地域で『自分の地域の何が本当の資源なのか？』を紐解く作業が盛んに行われています。地域の歴史的な経緯など調べていくと、やはり、各地域で寺社さんが中核になって、その地域の人々の生活を支えてきたという歴史や、お祭りのような文化があります。そういった歴史や文化を対外的にPRすることは、観光の魅力に繋がると思います。

編集部　観光の面からの寺社の取り組みについて、観光庁としてどのように関わって行けるかなど展望をお聞かせください。

蔵持課長　最近ですと、文化庁との共同作業で「文化財の英語解説のあり方について」をホームページで発表しました。案内板やパンフレットなどで、どういう風に英語に翻訳すれば、より魅力が伝わるかを事例とともに紹介しています。文化財となっていますが、メインは寺社さんと考えておりますので、ぜひご参考にして頂きたいですね。

編集部　最後に、寺社に対して期待されていることなどがございましたらお聞かせください。

蔵持課長　信仰の場としての役割はもちろん前提にした上ではありますが、地域を活性化させようという思いを持たれている寺社さんには、是非『観光』という面からの取り組みもご検討頂ければ、観光庁としては嬉しいですね。寺社観光を文化庁と一緒に盛り上げ、支援していきたいと思っております。

「文化財の英語解説のあり方について」に参考サイト
http://www.mlit.go.jp/common/001142189.pdf

多言語ガイドからデジタルサイネージまで 寺社向けの新たな観光サービスを実現するICT

外国人観光客の増加に伴い、観光サービスへのICT（情報通信技術）活用が進んでいることをご存知だろうか。ICTの中でも特にパソコンやスマートフォン、タブレットなどを無線で接続する「Wi-Fi」は、寺社の観光サービスとの相性が良い。外国人観光客の多い寺社では、翻訳アプリをスマートフォン等にインストールし 対応するケースもあるという。また、最近駅や電車内でもよく見かけるようになったデジタルサイネージ（電子看板）は、参拝案内や祭事案内などを分かりやすく、タイムリーに情報発信できる。災害時には迅速に緊急情報を発信するなど、防災面でも役立つ。インバウンド対応では翻訳アプリを活用することで、外国人観光客に寺社の歴史などを知ってもらえ、パンフレットの代わりとして活用できるなど、観光面で寺社の魅力を様々な人に伝えることができる。

デジタルサイネージによるガイダンス

参拝者がお寺の情報を発信してくれる効果も

外国人観光客や若者の間では誰でも自由にスマートフォンなどで利用できる『Free Wi-Fi』のニーズが高い。しかしながら、まだ対応している寺社は多くない。そこで昨年末よりFree Wi-Fiを提供している弘明寺（ぐみょうじ）の美松寛大（みまつかんだい）副住職に話を聞いた。

神奈川県横浜市にある弘明寺は1300年ほど前から続く、横浜最古の寺。本堂には国指定重要文化財にもなっている本尊十一面観世音菩薩立像が安置されている。また、坂東三十三観音霊場の十四番札所でもある。

Free Wi-Fiを提供するきっかけについて美松副住職はこう語る。「弘明寺には参拝者や観光客など不特定多数の方が訪れます。そこでFree Wi-Fiを提供すれば、参拝に来た方の利便性を少しでも高めることができるのではないかと思ったのです」。決め手になったのは、『Facebook Wi-Fi機能』だという。この機能により、参拝者がFacebookでお寺に『チェックイン』すると簡単にWi-Fi接続でき、かつ『友達』のタイムライン上にも表示されるので、プロモーション効果も高められる。「近々、弘明寺のFacebookページも開設する予定です。若い人たちにとってお寺は、格式が高いイメージがあるので、年間の行事や四季の風景などを発信して、そういったイメージを払拭していきたいです」と美松副住職。

本尊十一面観世音菩薩立像

現在は本堂と法事の控室がある建物に、さまざまなモバイル端末を無線接続できるWi-Fiアクセスポイント装置を設置。この装置は参拝者用、業務用などWi-Fiの電波を分けることができ、セキュリティ面も安全であることから、業務としては檀家さんの台帳管理などにも活用しているそうだ。

急増する外国人観光客への対応

弘明寺では、近年急増している外国人観光客への対応も検討中とのこと。「英語表記もない、英語を話せるスタッフもいないのが現状で

境内に設置されたWi-Fiアクセスポイント装置

PR

す。今後はSNSによる情報発信のほか翻訳ツールなども活用して、外国の方を〝おもてなし〟したいと考えています」と美松副住職は話す。

また、災害時の寺社の役割について伺うと「困っている方々を助けるのが寺の使命。この寺は高台にあり、災害時の避難所にもなると思います。そうした場合にFree Wi-Fiがあれば、安否の確認などに活用できます。そのためにも弘明寺がFree Wi-Fiを提供している、ということを大勢の方々にも知ってもらいたい。そういった案内もして行きたいと思います」と美松副住職は語ってくれた。

弘明寺本堂

美松寛大副住職

高野山真言宗　瑞應山　蓮華院
弘明寺（ぐみょうじ）
〒232-0067
神奈川県横浜市南区弘明寺町267
http://www.gumyoji.jp/index.html

美術館・博物館でのICT活用を寺社にも応用

昨年NTT東日本では、ミュージアムでのICT（Wi-Fi）活用のモデルケースとして『ミュージアムICTショーケース』を開催した。これは東京の複合文化施設「Bunkamura」の館内全体にWi-Fi環境を整備し、デジタルサイネージによる館内案内や貸し出しタブレットによる美術品のガイドなど、来館者がWi-Fiを活用したサービスを体験できるというもの。このタブレットによる館内案内は、音声ガイド機能もあり、説明スタッフがいなくても展示品の解説を聞くことが出来る。ほかにもさまざまな来館者のニーズに応えることができると注目を集めた。

これらのICTを活用したサービスは、寺社の観光にも応用できるのではないかと考える。

今後、外国人観光客に、日本語だけでなく多言語でしっかりと対応していくことが必要となっても、Wi-Fiを活用したタブレットでの多言語ガイド、デジタルサイネージを取り入れることにより、境内や仏像などの案内も多言語で情報発信できる。特に日本の伝統文化や歴史に興味を持っている外国人観光客向けには、デジタルサイネージを使った案内が効果的だ。

タブレットによる
ガイド画面

ICTが寺社観光を全面的にサポート

NTT東日本ビジネス開発本部の鈴木理寛さんにお聞きしたところ、ICTの導入によって、『訪れる前』と『訪れてから』の観光サービスが充実するという。「訪れる前には、ホームページやSNSで寺社の魅力を発信し、興味を持ってもらうことも重要ですし、訪れてからはWi-Fiの提供はもちろん、デジタルサイネージによる所蔵品の解説などさまざまな『おもてなしのツール』を提供することができます。さらに訪れた後は、SNSで自分の体験を発信してくれるなど、口コミ効果も期待できます。他にもWi-Fiの導入メリットとしては、端末への配線が露出しないため景観を損ねないといったことや、無線の監視カメラによるセキュリティ対策など、観光面以外にも活用できます」

寺社の観光サービス等をより充実させるためにも、今後ICTの導入は不可欠になってくるにちがいない。

【お問い合わせ】
株式会社NTT東日本-南関東
東京事業部 オフィスICT部門
TEL 0120-347899
受付時間　平日9時～17時

NTT東日本

ICTが架け橋になる。

寺社を訪れる人たちに、
その魅力をもっと伝えたい…
そのためのしくみづくりが、
ICTによって始まっています。

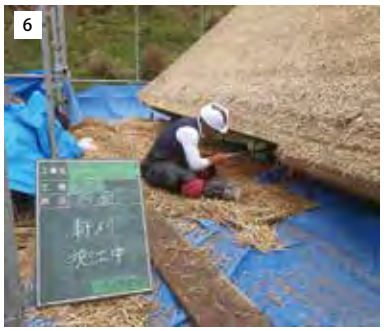
寺社や周辺地域の魅力を
世界に発信したり、多言語でガイドしたり。
さらに災害時には、
地域の人たちの通信手段ともなります。

あらゆる人を「おもてなし」する時代へ…
ICTが、寺社と人、
そして未来をつなぐ「架け橋」となります。

職人技

伝統と文化を継承する職人名鑑

美しき茅葺屋根の風景を後世に伝え残すために



1. 茅葺に使用するのは主に九州・阿蘇山のススキ。土壌が火山灰で質が良いのだという

2.3. 倉庫には常時約20000束のススキがストックされている。湿気の管理などにも細心の注意が払われる

4. 登録有形文化財に指定されている京都・浦嶋神社の本殿

5. 京都・高台寺の境内にある茶室「遺芳庵」

6.「軒刈」と呼ばれる作業を行う様子

7. 刃の厚い専用のカマは鍛冶職人に依頼した特注品

8. 茅葺屋根への想いを語る中野さん

美山茅葺株式会社
〒601-0712
京都府南丹市美山町北高倉69
TEL.0771-77-0649
http://www.cans.zaq.ne.jp/miyama-kayabuki/

数多くの茅葺民家が現存し、1993（平成5）年には国の『重要伝統的建造物群保存地区』にも指定された京都府・美山町北。生まれ故郷であるこの地で、茅葺屋根工事専門の「美山茅葺（みやまかやぶき）株式会社」を運営しているのが中野誠さんだ。1991（平成3）年に地元を代表する職人の元に弟子入りし、約7年間の修業を経て独立。以来、一般民家のみに留まらず、醍醐寺や浦島神社など全国の寺社や文化財の施工・修復案件も数多く手がけており、古き良き茅葺屋根の魅力を伝える様々な活動にも尽力している。

「農協に勤めていた私に転機が訪れたのは、22歳の時。イギリスで知り合った方に、茅葺屋根が連なる美山の写真を見せると、ことのほか感動されましてね。『こんな素晴らしい風景が日本にはあるのか！』と。あまりに身近で気にも留めていなかった茅葺屋根でしたが、私がこの道に進むことは運命づけられていたのかも知れませんね」。

次世代への継承にも注力している中野さんの元では現在、多くの若手職人が修業に励んでいる。「どんなに素晴らしい文化でも、いったん火を絶やしてしまえばそこで終わり。日本が世界に誇れる茅葺屋根の文化を、後世にしっかり伝え残すことが私の使命だと、決意を新たにしています」。

臨済宗二大遠諱、中村元東方学院勉強会等を通じて多角的な視点で大乗仏教を学び、その真理を追究

國友 憲昭

臨済宗天龍寺派大本山天龍寺 塔頭
永明院 住職

臨済宗二大遠諱を迎え精力的に協力

臨済宗は今年「臨済義玄禅師1150年」、そして来年には「白隠慧鶴禅師250年」という大きな遠諱が立て続けに行われる。両遠諱のさまざまな行事に協力して、日々学究している天龍寺 塔頭 永明院 住職 國友憲昭さんにお話を伺った。

「2016年に京都国立博物館、東京国立博物館で開催された『禅 心をかたちに』という展覧会で法話と坐禅会を行ったのを皮切りに、各都市の会場では大坐禅会やシンポジウム、講演など、それぞれの都市に応じて開催されました。臨済宗各御本山としても『禅 心をかたちに』展や臨済義玄禅師1150年のための訪中事業など、協力を惜しまずに取り組んでおります」

また、10月29日と30日には大本山建長寺と大本山円覚寺で1000人規模の『鎌倉大坐禅会』が『臨済義玄禅師1150年・白隠慧鶴禅師250年遠諱』の記念企画として開催される。これに代表されるように臨済宗と黄檗宗がともに総力を挙げて大遠諱に向けて取り組んでいる。

大遠諱に関わる行事は東京、京都をはじめ日本各地で行われる。遠諱大法要をはじめ各地の寺院で開催する一般の方向けの坐禅会、日中合同記念法要のための顕彰旅行など、数年前から企画されてきたものがより大きな規模となって行われている。

「中でも今年の5月に花園大学で開催された国際学会は、国内

3月10日に大本山東福寺で営まれた、臨済禅師・白隠禅師遠諱大法会ー半斎の様子

外の研究者や実践者を招待し、講演や研究発表、討論、交流を展開し、どなたでも参加できるという非常に有意義なものになりました」。また、来年の5月12日にも花園大学で〝白隠禅師シンポジウムin京都〟というタイトルで開催を予定しており、白隠慧鶴禅師にまつわる研究内容が発表される。「ほかにも、昨年から今年の2月の期間には臨済禅師1150年遠諱を記念し、南禅寺派管長中村文峰老大師による臨済録提唱が大本山南禅寺にて8月を除いた毎月行われていました。このように臨黄全宗派が一丸となり、大遠諱を成功させようと頑張っています」と國友住職。

3月3日～9日の7日間にわたって、全国の僧堂の雲水（修行僧）が約200人参集し、報恩接心が行われた

独自の勉強会を通じ宗派を超えて仏教を学ぶ

その精力的な活動意欲は、約7年前から取り組んでいる勉強会に対しても顕著に現れている。「現在行っている勉強会の前身はだいたい7年前頃に始めたものが最初で、当初から宗派はもとより、僧侶、一般の方などの区別なく、仏教を学びたい人に広くご参加いただくこと。そして若手僧侶に学ぶ機会を作りたいという2つが大きなテーマでした。現在は中村元東方学院と共同開催での勉強会を企画し、東方学院とも縁の深い、花園大学佐々木閑教授をお招きして毎回テーマに沿った集中講義をしていただいています」

9月8日の勉強会の様子

9月7日と8日の2日間にわたって開催された勉強会のテーマは〝経典を読む〟。両日午前と午後にわたる講義には日本各地から若い僧侶や仏教に興味を持つ一般の人々が集まり、時にユーモアを交えながら進められる。講義は質問なども飛び交い、毎回白熱したものとなっている。

「勉強会のテーマは毎回参加者からのリクエストを参考にしつつ、時事のタイムリーなトピックなども取り入れて決めています。ここで学んだ僧侶が地元に戻って、学んだ経験を他の若手僧侶に伝えるという試みもなされており、今年は佐賀県や静岡県でも勉強会が開催される予定です。このように学びの裾野を拡大するという役割も担うことで、大乗仏教がより広く伝われば良いと考えています。また、勉強会とは異なりますが、今後は原始仏教を学ぶ上で重要な場所であるタイでの僧侶体験を経験できる企画も進行しており、宗派の垣根を越えて人のために何ができるのかを追求していきたいとアイデアを練っている最中です」

勉強会では佐々木閑教授による講義が行われた

宗派を超えることで時に問題が生じることもあるものの、仲間のサポートや、國友住職の行動力に多くの人が賛同している。日々、クリエイティブな発想で大乗仏教を広げることに取り組む國友住職にその活動の源について尋ねてみた。

「自分自身のテーマは楽しみながら、まずみんなで取り組むということ。これは坐禅会や法話会に対する姿勢も同じで、自分が楽しむことでクリエイティブな発想が生まれてくる。そして大乗仏教を楽しく幸せに学べることを考えて、それをどう実行するかを突き詰め、最終的には人のために何ができるかを道標にしています」

プロフィール

國友（くにとも） 憲昭（のりあき）

米サンフランシスコの広告会社でデザイナーとして活動しながらも1987（昭和62）年に一旦帰国し宮城県松島瑞巌寺の専門道場に入門し、翌々年に永明院副住職を拝命。
同年、再び渡米し貿易やレストラン経営、店舗デザインなどを手掛けるが、1997（平成9）年に永明院の住職死去に伴い2001（平成13）年に本格的に帰国。2007（平成19）年に天龍寺第一教区宗務支所長を拝命、現在は天龍寺派教学部長に就任、タイの仏教大学で講演を行うなど日本のみならず国際的に活躍する。

臨済宗天龍寺派
大本山天龍寺 塔頭
永明院

〒616-8385
京都市右京区嵯峨天龍寺
芒ノ馬場町60
TEL.075-861-3249
http://www.youmeiin.com/

投入堂　©鳥取県

シリーズ「日本遺産と寺社」Vol.1

文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定する取り組みが2015（平成27）年より始まり、現在では18の日本遺産が認定されている。
本シリーズでは、日本遺産の構成要素として大きな位置付けとなっている寺社に注目し、認定までの取組み、地域との連携について紹介する。

鳥取県三朝町 × 三徳山三佛寺「六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」

歴史的な経緯や風習、〝ストーリー〟で地域の魅力を伝える日本遺産

2015（平成27）年4月、文化庁は日本遺産審査委員会の審議を経て、申請があった83件の中から18件を「日本遺産」として認定した。この日本遺産は2013（平成25）年に「クールジャパン」戦略の一環として政府が打ち出した施策で、遺跡や寺社、伝統芸能などの有形・無形の文化財群をツールに、文化財が継承・保存されている歴史的経緯や風習などを踏まえながら明確なテーマを設定し、いかにその地域の魅力を伝えているかという〝ストーリー〟が重要となる。つまり、これまでのように遺産そのものを〝点〟として認定保存するだけでなく、広範囲に点在するさまざまな遺産を〝面〟として捉えて認定、活用するという新しい試みだ。

世界遺産は登録される文化財の価値付けを行い、保護を担保することを目的とするが、日本遺産は地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている。認定の申請は年に1回、文化庁が都道府県教育委員会を通じて、日本遺産認定の希望に関する募集を行う。日本遺産の申請者は市町村とし、文化庁への申請は都道府県教育委員会を経由して提出し、日本遺産審査委員会において、審査基準に基づく審査を経て日本遺産に認定される。認定により地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化、ひいては地方創生に繋がることが期待される。

信仰と湯治の密接なつながりで独特の世界観を具現化

日本遺産認定第1号でもある鳥取県三朝町のストーリーのタイトルは、「六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」。鳥取県三朝町は、県のほぼ中央に位置する。三朝温泉からさらに東へ9キロほど進むと、神仏習合の三徳山三佛寺がある。

この三徳山と三朝温泉のつながりは深い。今からおよそ850年前に源頼朝の父・源義朝の家臣である大久保左馬之祐が三徳山に参拝する途中、白狼を助けたことにより、妙見菩薩から授けられたのが三朝温泉と伝えられている。その後、三朝温泉は身体を、三徳山は心を清めるための拠点として発展、現在もその形態は受け継がれている。

こうした歴史的な物語が背景となり、2015（平成27）年4月日本遺産となった。三徳山の修行で、「六根（目、耳、鼻、舌、身、意）」が清められ、さらに三朝温泉の湯治で、「六感（観、聴、香、味、触、心）」が癒される。三徳山信仰と温泉湯治が深くつながっているという物語が類い稀な世界観を具現化している点が評価され、「六根清浄と六感治癒の地」として認定された。

日本遺産
ロゴマーク

インタビュー：三徳山三佛寺／三朝町教育委員会

歴史的背景や文化財などを生かし、三徳山と三朝温泉のストーリーを構築

圧倒的な存在感で魅了する急峻な地形と特異な景観

三徳山の開山は706（慶雲3）年。役行者（えんのぎょうじゃ）がハスの花びらを3枚散らして、「仏教に縁のあるところに落ちよ」と祈ったところ、1枚が吉野に、1枚が伊予国に、最後の1枚が三徳山に落ちたため、修験道の行場となったのがはじまりといわれている。

2014（平成26）年には自然環境の希少性や優れた自然景勝地であることが評価され、大山隠岐国立公園に編入されている。

三徳山が多くの人に知られている理由は、山岳修験の急峻な地形と神仏習合の独特の建物が点在する特異な景観だ。参拝登山事務所から国宝に指定されている投入堂（なげいれどう）までは、標高差約200メートルあり、山中には文殊堂や鐘楼堂、観音堂などが点在する。なんといっても断崖絶壁の中腹にある岩のくぼみに建てられた投入堂は、圧倒的な存在感で訪れる人を魅了する。それが「日本一危ない国宝鑑賞」といわれる所以でもある。

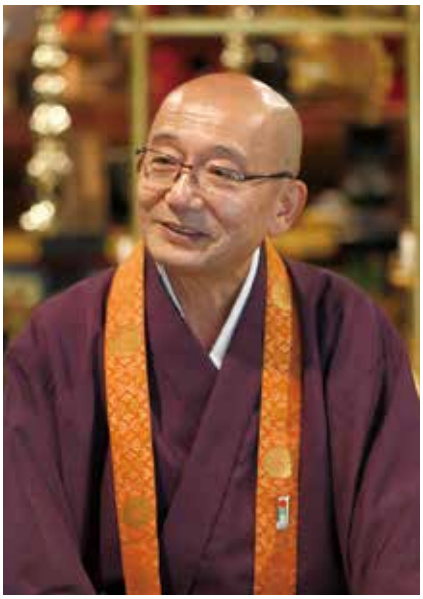
そんな三徳山で知られる鳥取県三朝町が日本遺産に認定されるまでの取り組みについて、三徳山三佛寺住職の米田良中（よねだりょうちゅう）さんと、三朝町教育委員会社会教育課主幹の藤井紀好（ふじいのりよし）さんにお伺いした。

体験を通じて歴史を感じられる日本遺産

三徳山・三朝温泉の日本遺産登録への出発点は「地域の人々に目に見える形で日本の魅力、宝が地域にあることを知っていただきたいという思いから」と藤井さん。三徳山については以前から有志たちが「三徳山を守る会」を組織し、環境保全活動などを行ってきた。また、2006（平成18）年に当時の県知事・片山氏が三徳山に登った後、「三徳山は鳥取の宝、日本の宝、世界の宝」と話したことをきっかけに、官民挙げて世界遺産登録推進への取り組みが活発化した。こうした動きを背景に三朝町教育委員会では日本遺産認定へ向け、三徳山との関わりも深い三朝温泉も含めたストーリーを構築したのだ。

その際、「単なる観光情報ではなく、歴史的背景や伝承を整理し、両者を結びつける物語を描きました。もともとあった文化財など、これまで見過ごしていたものを掘り起こすきっかけにもなりました。また、ほかの日本遺産は『知って勉強になる、知識が豊かになる』といった面が大きいように思いますが、三徳山と三朝温泉は『汗をかいて山に登る・温泉に入る』といった体験を重視した側面があります。このため、外国人観光客にも言葉を必要とせず、日本の素晴らしさが伝わるのではと考えました」と藤井さんは振り返る。

一方、米田住職は「日本遺産が目指しているのは、『光を観る＝観光』だと考えています。ですから、日本遺産登録推進の際には、三徳山は神様の光を見られる『祈りの山』であること、神様や仏様の力をいただいて蘇生する体験が重要だとお伝えしました」と話す。



(右)六根清浄の「鼻」にあたる三徳山三佛寺の本堂
(中)三徳山三佛寺 住職　米田良中さん
(左)三朝町教育委員会 社会教育課 主幹　藤井紀好さん

日本遺産に認定されてからは、三朝温泉を訪れる観光客が2014（平成26）年度の36万6千人から39万1千人に増え、中でも外国人観光客は4千人から8千400人に倍増した。とくにアジア圏の外国人観光客が多く、「海外からの誘客も日本遺産の目的。パンフレットやガイドの作成、看板の設置なども進めています」と藤井さん。

半面、三徳山では参拝者の増加に伴い、山が傷んで崩壊することを懸念する声も挙がった。三徳山は参拝する際、安全に配慮し、入山の際に服装と靴のチェックを受ける。この時、山の荒廃を防ぐため金具のついた登山靴も禁止されている。米田住職は「安全上、有料のわらじを履いていただくなどの対策を取っていますが、来年以降は山を守るための活動『山護（やまもり）運動』も検討中です。協力者に麻袋を運んでいただき、補修をお手伝いしてもらおうという運動です」と話す。

三朝温泉河原風呂　ⓒ鳥取県

三徳山と三朝温泉が連携した行事「春の御幸行列」

三徳山と三朝温泉を広くアピールしていくためには、行政、三徳山、そして地域の協力も不可欠だ。この点については、もともと、参拝者が三朝温泉に宿泊するケースが多かったこともあり、三徳山と三朝温泉の連携の素地はできていたといえる。

こうした連携を具現化している行事が「春の御幸行列」だ。これは開山1300年にあたる2006（平成18）年に復活した三徳山の節目となるイベント。通常、本堂から御旅所まで行列を行うが、年によっては三朝温泉までの「大回り」を行う。2017（平成29）年4月29日に開催する御幸行列でも大回りを行う予定だ。

また、三朝温泉では毎年、ラジウムの発見者であるキュリー夫人の功績を称え、『キュリー祭』を開催している。米田住職は「参加者にはぜひ、六根清浄の袈裟をかけて三徳山に登っていただきたいですね」と期待する。

三徳山文殊堂と地蔵堂　ⓒ鳥取県

県内外に日本遺産を広め、認知度を高めることが課題

三朝町教育委員会では、県内外の観光施設などにパンフレットやポスターを送りPRに努めるほか、鳥取県の支援策として三徳山への道の途中の案内板の裏面を活用し、日本遺産の広報を行ったり、昨年行われた「アジアトレイルズカンファレンス鳥取大会　ウォーキングフェスティバル」でも「日本遺産三朝温泉・三徳山トレイル」という8．7キロのコースを用意。今年は鳥取県主催のウォーキング世界大会「WTC鳥取大会」でも三朝温泉から三徳山まで歩く約9キロのコース「三朝温泉と三徳山の歴史をたどる日本遺産参詣の道」を設定し、認知度を上げるため県内外に広くアピールしている。

「行政は日本遺産の認知度を高めるために、継続的な取り組みが求められると思います。また、2020年に日本遺産が100件になった時、三徳山・三朝温泉が埋もれてしまわないよう、ほかとの差別化を図ることも大切です。それには、これまで以上に特色を広くアピールしていくことが重要な鍵となるのでは」と藤井さん。

米田住職は「三徳山は関西ではある程度、知名度がありますが、関東ではまだまだ。日本遺産となったことで補助金をいただき、広報活動がしやすくなったことはありがたいことです。今後は首都圏以北へのPR活動に力を入れたいですね」と期待を高める。

日本遺産認定を弾みに、三徳山・三朝温泉の魅力を発信し、地域振興へとつなげていく。それこそがこの地域の人々が望むストーリーなのかもしれない。

文化庁ホームページ
「日本遺産（Japan Heritage）」について
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/nihon_isan/

三朝町教育委員会社会教育課

〒682-0195
鳥取県東伯郡三朝町大瀬999番地2
TEL.0858-43-3518
http://www.town.misasa.tottori.jp/315/319/446/332/

【取材協力】

天台宗
三徳山三佛寺

〒682-0132
鳥取県東伯郡三朝町三徳1010
TEL.0858-43-2666
http://www.mitokusan.jp/

活性人

寺社を活性化させる
キーパーソンに聞く

株式会社朱鷺書房　代表取締役

嶝 牧夫

2007（平成19）年に急逝した兄の後を継ぎ株式会社朱鷺書房の代表取締役に就任。奈良の寺院について興味を持ったことをきっかけに神社仏閣について学ぶように。現在は自ら霊場を巡って取材に携わる。

霊場巡りの素晴らしさを伝える立役者として自らも取材へ

多くの縁に彩られた「巡礼本出版」の道

1975（昭和50）年創業の朱鷺書房は、宗教や教育などの書籍を主に扱う出版社。現在までに68冊の巡礼本を出版し、その95%が霊場公式本という。自身も取材で各地の霊場を巡る嶝牧夫さんに巡礼本を手掛けるようになった経緯を聞いた。

「私の入社時には既に巡礼本の第一人者である故・下休場由晴先生や富永航平先生と懇意にさせていただいていましたが、巡礼本発行のきっかけとなったのは、創業時からご縁があった真言宗の僧籍を持つ安倍野竜正先生です。安倍野先生に最初に『生かせいのち』という書籍を執筆頂き、その後浅草寺第27世貫主だった清水孝尚先生に『観音巡礼のすすめ』を、宮崎忍勝先生に『四国遍路』を執筆して頂いたのが契機だと聞いています。こういった先生方とのご縁が現在の当社の礎となっています」。したがって、朱鷺書房が発行する巡礼本は観光ガイド的な内容にとどまらないのが特徴となる。「当社のモットーは現代人の心を見つめる息が長い書籍を世に出すことですが、宗教関連の書物や巡礼本はその代表的存在だといえます。私も各地の巡礼をするようになり、巡礼本を手掛ける上でより“お寺からの声”を届けたいと願うようになりました。単なるガイドに終始せず、法話を掲載しているのも当社の巡礼本の特徴ですね」

巡礼本が東北復興に役立つことを願って

巡礼本を作成するにあたり、中には非常に印象深いエピソードも。「感慨深いのは2010年10月に取材をした『東北三十六不動尊霊場ガイド』です。編集作業をしていた翌年3月に東日本大震災が起こり、多くのお寺が甚大な被害を受けました。特に陸前高田市の金剛寺は全てが津波に飲まれ、残ったのは高台にあった不動堂だけ。『東北三十六不動尊霊場ガイド』は震災前の貴重な写真を掲載し製作中だったため、復興の一端となればと前倒しで出版しました」。この『東北三十六不動尊霊場ガイド』には金剛寺の在りし日の美しい景色と立派な本堂が掲載されている。「これが復興に役立てばと願ってやみません。今後も復興のお手伝いするだけでなく、まだ世に知られていない霊場を紹介し、多くの人に霊場巡りの素晴らしさを伝えたいと考えています」

朱鷺書房がこれまで発行してきた巡礼本

同社の倉庫には日本全国の巡礼本が保管されている

株式会社朱鷺書房

〒533-0031　大阪市東淀川区西淡路1-1-9 ビジネス新大阪1F
TEL. 06-6323-3297　http://www.tokishobo.co.jp/

トレンドNow

今話題のトレンドの波は寺社界にもジワジワ押し寄せています！

トレンド発信

「呼応する木々」（上）と「呼応する球体」（下）

下鴨神社とチームラボが初コラボ 世界遺産が光のアート空間に

今夏、世界遺産・下鴨神社で、神秘的な光と歴史的空間が織りなすアートイベント「下鴨神社 糺（ただす）の森の光の祭 Art by teamLab supported by beachwalkers.」が開催された。会期中、２種のアート作品「呼応する木々―下鴨神社 糺の森」「呼応する球体―下鴨神社 糺の森」が展示され、多くの観光客を魅了した。

プロデュースを手がけたのは、プログラマ、エンジニア、数学者など様々な分野のスペシャリストから構成されるウルトラテクノロジスト集団、チームラボ。最先端技術を駆使した画期的な作品で話題を集める彼らの初めて下鴨神社と行うイベントとあり、その全貌に世界が注目した。「呼応する木々」では糺の森の山道沿いの木々をライトアップ。鑑賞者や動物がその近くを通ると光の色が変化し、音色を奏でながらその光が他の木へ次々と伝播していくといった幻想的な世界を演出。また「呼応する球体」では桜門内に設置された光の球体がまるで呼吸しているかのような空間を創造。球体に衝撃を加えると色が変化し、その色特有の音色を響かせながらまわりの球体にも光が広まっていくという神秘的な作品を創り上げた。

今回の下鴨神社とチームラボによるコレボレーションの目的の一つには“京都の文化価値向上”があり、今後も永続的な開催を目標としているとのこと。京都の夏を彩る恒例行事となるよう、来年の開催も楽しみにしておきたい。
http://light-festival.team-lab.net/

伊奈波神社と老舗米菓子製造会社が 奉納塩を使ったクッキーを発売

岐阜市の「伊奈波神社（いなばじんじゃ）」と本巣市下真桑に工場を構える老舗米菓製造販売会社「だるま堂製菓」が、三重県伊勢市の二見浦から同神社に奉納されている「岩戸の塩」を使用した「岩戸の塩 バタークッキー」を開発・発売した。夫婦岩などで知られる二見浦は、佐見都日女命（さみつひめのみこと）が倭姫命（やまとひめのみこと）に堅塩を献上した製塩の歴史があり、かつて二見興玉神社の神職だった東道人（ひがしみちひと）宮司が「天岩戸伝説」にちなんで「岩戸の塩」と命名。それを機に、2001（平成 13）年から二見町の住民が伊奈波神社に「岩戸の塩」を奉納している。「岩戸の塩」は現在も海水のみを原料に伝統的な釜炊き製法で作られている無添加の天然塩で、ミネラル成分が豊富なことから女性を中心に話題を集めている。

そんな体にも優しい塩を練りこんだ「岩戸の塩 バタークッキー」(700 円、税込) は昔懐かしいシンプルなバター風味が特徴で、女性や子供はもちろん、男性にも喜ばれる味に仕上がっている。クッキーは、伊奈波神社 (岐阜県岐阜市伊奈波通 1 丁目 1 番地) とだるま堂製菓直売店「谷汲あられの里」(揖斐川町谷汲名礼 459-288) で販売している。

右:伊奈波神社 東道人宮司　左:だるま堂製菓 奥田弘男社長

行政・観光リポート

行政・観光のトレンド情報をリポート

観光地域づくりの舵取り役として期待される日本版DMO候補法人に「知多半島観光事業協会」が登録

観光スタイルが団体型から個人型へ大きく移行するなか、新しい観光地域振興の推進体制として注目されているDMO(Destination Management/Marketing Organization)。人口減少・少子高齢化に直面する我が国の最重要課題・地方創生においての新たなキーワードである。昨年11月には、観光庁において日本版DMOの候補となりうる法人「日本版DMO候補法人」の登録制度が創設された。

日本版DMOを中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成や、各種データ等の継続的な収集・分析、データ等に基づく明確なコンセプトに基づいた戦略の策定、KPI(重要業績評価指標)の設定・PDCAサイクルの確立など、具体的な「日本版DMO形成・確立計画」を観光庁に提出し、登録条件を満たしていると認められた日本版DMO候補法人が次々と公表されるなか、7月にも第4弾となる7つの候補法人の登録が行われた。そのなかの1つに選ばれた「一般社団法人 知多半島観光事業協会」の取り組みに注目してみたい。

日本版DMO候補法人の第4弾に「(一社)知多半島観光事業協会」が登録

愛知県の南知多町、美浜町で知多半島南部の観光協会や観光業者が中心となり日本版DMO候補法人「一般社団法人 知多半島観光事業協会」を設立。当該区域内の来訪者数はピーク時から減少の途をたどっており、日本版DMO発足を機に、将来的には知多半島全域を着地周遊型および宿泊型の観光地とし、国内外問わず老若男女に訴える観光地域づくりを目指している。観光庁に提出した「日本版DMO形成・確立計画」においては、外国人観光入込客低迷の要因をアンケート調査で詳しく分析し、日本版DMOが自律的・継続的に活動するための重点的なマーケティング戦略を発表。地域の「稼ぐ力」を引き出し、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点にたった観光地域づくりの舵取り役として、今後の取り組みに期待を集めている。

日本版DMOを中心とした観光関連事業との連携の重要性

もともと風光明媚な知多半島は多くの観光資源に恵まれているが、歴史面においても弘法大師が東国巡錫の途中に上陸した聖地といわれ、98のお寺から構成される「知多四国霊場」がある。2018(平成30)年には「知多四国霊場会開創210年」を迎え、昨今知多四国巡りがさらに盛り上がりを見せている。

日本版DMOに登録された「一般社団法人 知多半島観光事業協会」、歴史ある「知多四国霊場会」をはじめ、宗教や行政、関連団体、事業者の枠を超えた連携と戦略が、観光地域確立の今後ますます重要なポイントとなってくるだろう。

南知多町の大井港を望む聖崎の双子島に立つ弘法大師像。その昔、弘法大師が三河からこの地に上陸したとの伝承にちなむ。

五百羅漢（ごひゃくらかん）

人の喜怒哀楽を捉えた市指定有形民俗文化財

（上）多用な表情と仕草の五百羅漢。
（下）中央に釈迦如来、脇侍の文殊普賢の両菩薩を配している

天台宗
星野山 喜多院（きたいん）
〒350-0036
埼玉県川越市小仙波町1-20-1
TEL：049-222-0859
http://www.kawagoe.com/kitain/

埼玉県川越市にある喜多院（きたいん）。別名「川越大師」と呼ばれるこのお寺には、日本三大羅漢の一つにも数えられる五百羅漢がある。中央に釈迦如来、脇侍の文殊普賢の両菩薩を配し、十大弟子、十六羅漢を含め全部で538体の羅漢像が鎮座する。この羅漢は1782（天明2）年、北田島村（現、川越市）の百姓で、後に出家し志誠（しじょう）と称した人物が発願し、建て始めたという。当時は浅間山の噴火などで、飢饉だった頃。それゆえ、天変地異により亡くなった方への供養や五穀豊穣を願い建立されたと伝えられている。創建中に志誠は亡くなるが、その遺志を喜多院の僧侶たちが継ぎ、約50年もの歳月をかけて創られた。

五百羅漢の表情は、笑うのあり、泣くのあり、怒るのありと実に多様。「羅漢とは、阿羅漢の略。つまり、もとは僧侶、人間です。人の心の喜怒哀楽を素直に表現したからこそ、様々な表情があり、苦しい時代を生きるエネルギーを表情に込めたのではないでしょうか」と塩入秀知住職。夜中に詣って羅漢の頭を一つずつ撫でて歩くと、必ず一つ温かいものにいきつく。それは、亡くなった親兄弟の顔に似ているといわれている。

荘厳な彫刻をあしらった県指定文化財

箭弓稲荷神社の社殿

(上)拝殿の軒下の彫刻
(右)拝殿の背面にある「仙人の烏鷺」の彫刻
(左上)拝殿琵琶板彫刻部分
(左下)多くの彫刻が施された拝殿背面

箭弓稲荷神社

〒355-0028
埼玉県東松山市箭弓町2-5-14
TEL：0493-22-2104
http://www.yakyu-inari.jp/

712(和銅5)年に創建された箭弓稲荷神社。権現造りの現在の社殿は1843(天保14)年に建立。龍、獅子、獏、鶴、鳳凰といったモチーフや中国故事「黄石公と張良」「項羽と劉邦」、「三条小鍛冶」などを題材にした様々な彫刻があしらわれ、その精緻さが際立つ。この彫刻を手がけたのは、国宝である妻沼聖天山の彫刻に携わった石原吟八義明の門人・飯田仙之助。それゆえ、石原流の高い技術が駆使されている。

数ある神社彫刻の中でも珍しいのは本殿の軒下にある彫刻「二頭の一角霊獣」。頭に一角を持った二頭の霊獣は、その姿形から龍の長である蚪龍のようにも見える。本殿の背面にある見事な彫刻は「仙人の烏鷺」。樵が仙人の囲碁対局を見て楽しんでいる様子を題材にしながら、右手に持つ斧の柄がくさるほど長い時間が経ってしまった姿を表現。これは、争い事をしている間も碁に興じる間も同じ時間、心にゆとりを持つことの大切さを意味している。

今年、創建1300年を迎え、社殿を修復。本格的な学術調査にも取り組んだところ、建築学の面でも価値があることがわかっている。

（右）千葉公慈老師（駒沢女子大学教授・宝林寺住職）による講演。
（上）「禅といま」推進委員会のメンバー。右から宗清寺 飯島尚之住職、栄林寺 櫻井孝順住職、洞雲寺 齋藤賢隆住職　（下）坐禅体験の様子

曹洞宗・夏期大学講座「禅といま」

ホテルで講演から坐禅まで行う講座は都市部における新しい布教に

有志の推進委員会が運営 会員は2000名超

7月下旬、東京グランドホテルにて夏期大学講座「禅といま」が開催された。今回で17回目を迎えるこの講座が始まった経緯について「禅といま」推進委員会の櫻井住職は「平成14年には曹洞宗大本山永平寺のご開山道元禅師750回大遠忌があり、それに先立ち文化事業として行ったのが始まりです。また平成12年は、道元禅師がご生誕800年を迎えたこともあり、記念事業として取り組んで来ました」と話す。当初は大本山永平寺が主催・運営をしていたものの、有志の寺院が中心となり「禅といま」推進委員会を設立し、約20名が引き継いでいる。さらに講座の受講者らが推進委員会をサポートし、現在、2000名を超える会員組織になっているという。

講座のテーマは、1回目から変わることなく「禅を通して、いまをどう生きるかを考える」。お寺には縁遠くとも、仏教、とりわけ禅に興味のある方を対象にすることで間口を広げている。講座は2日間。両日とも午前と午後に分けての講演、昼食は禅の作法に則って精進料理弁当をいただく。午後の講演を聴講した後、希望者は1時間の坐禅も体験できる。受講料は2日間通して8000円。受講料の一部は、毎年、曹洞宗義援金などに寄託されるという。

これまで日本を支えてきた団塊の世代へ仏教を届ける

この講座は東京都内のホテルを会場とし、定員300名だが、毎回ほぼ満席に近い。「お寺で行うとどうしても敷居が高いと思われがちですが、その点ホテルならみなさん参加しやすいのではないでしょうか」と推進委員会の飯島住職。とはいえ満席にするための苦労は尽きない。「とくに難しいのが講師の選定です。毎回違う方にお願いし、必ず一人は仏教を実践されている方をお招きするようにしています。開催準備は1年かけて行っています」。

「禅といま」推進委員会は、この講座だけでなく寒中勉強会や花まつりなども主催。また、旅行会社と共に企画した参拝旅行に同行僧侶として参加するなど、年間を通して活動を行っている。「仏教は究極の情報産業です。その情報を宗教難民といわれる団塊の世代の人たちへ届けることが、今後より必要になってくるのではないでしょうか。これまで日本を支えてきたのはこの世代であり、日本の価値観にも影響するといえるからです」と推進委員会の飯島住職は熱く語ってくれた。

【主催】
「禅といま」推進委員会事務局
〒162-0053
東京都新宿区原町2-62大龍寺内
TEL.03-3207-0770

【主な会場】
東京グランドホテル
〒105-0014
東京都港区芝2-5-2

山梨県

身延山東谷 日朝大上人霊跡 行学院 覚林坊

宿泊客の声に耳を傾け、今に合う工夫を重ねる宿坊

写真右:通称「おてらんち」からのぞむ庭園
写真上・下:夢想国師作の日本庭園をのぞめる庭側の個室と土曜・日曜・祝日のランチ「おてらんち」

日蓮宗総本山・身延山久遠寺の門前町として栄えた山梨県身延町。身延山久遠寺を囲むように20箇所の宿坊が点在し、参拝客を迎え入れている。行学院覚林坊もそのひとつ。

敷地内には夢窓国師が手掛けた日本庭園・心字池（町指定文化財）があり、北側に面した客間や縁側を改装した食事スペース、通称「おてらんち」からはこの庭園を楽しむことができる。この「おてらんち」、豪雪により軒下の改装を余儀なくされた際に、宿泊客からの「庭を眺めながらのんびりしたい」という声に応えたもの。週末は予約なしでお茶や食事を楽しみながら庭を見てもらえるよう開放している。

食事は季節の地元食材と身延特産の湯葉をふんだんに使った創作料理。これも「名物の湯葉をお詣りついでに食べたい」という声から生まれた。昔ながらの一汁三菜のお料理から、自分たちでいろいろ工夫しながら一品ずつ湯葉の料理に変えていくと、雑誌などで取り上げられ「覚林坊に行けば湯葉が食べられる」とクチコミで広まっていったそうだ。宿泊客の声に耳を傾け、開かれた宿坊を目指す、これこそが覚林坊の指針とも言える。訪れた人々は自然や庭に感動し、畳や襖など昔ながらの部屋、心づくしの料理に癒やされる。そして、久遠寺で朝のお勤めに参加したり、お経などお寺での体験も充実、申し込めば住職の法話も聞ける。「季節柄や時候柄、天気や土地柄を織り込んで話をします。お聞きになりたいことを言っていただければ、それに即した話もします」と樋口是亮住職。

今年から特に増えた外国人客に向けたスタッフの英語学習も始めた。それも「なぜここで湯葉料理なのか」など、一歩踏み込んだストーリーまで話したいという思いからだという。また、夏休みに限り子供料金を半額にするサービスについて、宿坊運営の現場取り仕切る若奥様の樋口純子さんは「幼い時にお寺に馴染んで欲しいという思いを込めて行っています」と語る。

今後は中部横断自動車道の開通による地域の活性化が期待される、覚林坊の新たな取り組みはまだまだ続く。

宿坊を運営する樋口是亮住職

宿坊開設までの歩み

創業
およそ250年から300年前

2006～2013年
浴槽改築、施設の洋式化

2015年
縁側改装　廊下兼「おてらんち」としての食事スペースに冷暖房の充実

主な体験内容

朝のお勤め、法話、お経体験　等

住　所：〒409-2524 山梨県南巨摩郡身延町身延3510番地
TEL：0556-62-0014
URL：http://kakurinbo.jp/
客室数：20室
収容人数：150名
主な施設：大浴場、食堂、食事用個室兼広間、駐車場（15台）

宿坊研究会レポート

第9回

寺社や宿坊が木造建築普及の担い手に

寺社旅研究家・宿坊研究会代表／堀内克彦

木造建築の部屋がある大分・文殊仙寺の宿坊

日本初となる大型木造耐火の文化ホール、南陽市文化会館

技術革新と木造の大型施設

2015（平成27）年12月21日、山形県にある南陽市文化会館が、「最大の木造コンサートホール」としてギネス認定されました。私はこのニュースが今後、寺社にも影響を与える事として注目しています。寺社の建物や宿坊は鉄筋で建てられることが多いですが、これは主にコストと防災（強度や耐火性能など）両面から選択されています。しかしながら、大ホール1403席、小ホール500人収容、ギャラリーやアトリエ、キッチンスタジオを備えた大型施設が木造で造られたことは、意義があります。通常、大型ホールでは建築基準法により木造は認められませんでしたが、同ホールは火災に強い「耐火木構造部材」を採用したことで可能となりました。

東京オリンピックの会場となる新国立競技場も、木材を多く使用する計画が示されました。この20年の間に耐火や防腐、強度など木材の技術革新はめざましく、法律においても高さや材質の規制緩和が続いています。

再生可能な木材の可能性

寺社を訪れる参拝者や宿坊に泊まった方から、木造ではないことが残念だったとご意見をいただくことがあります。木の文化と言われる日本ですが、現在この分野をリードするのはヨーロッパです。日本には古くから木材が活用されていた分、「木はコンクリートより劣ったもの」というイメージが強いのかもしれませんが、海外では素直にクールと受け止められています。

そこで、寺社や宿坊が木造建築普及の旗振りを担うのはいかがでしょうか？木材はただ美しいだけではありません。林業復興や里山の再生、木くずから生まれるペレットや木質バイオマス発電によるエネルギー資源獲得に繋がります。コスト面も量産可能な小規模建築では、価格が抑えられつつあります。また、森林破壊が進むのではと思う人がいるかもしれません。しかし、木材は本来、再生可能な資源です。

現在、オーストリアでは高度な森林管理を行う「森林マイスター」という制度も作られています。日本は国土面積の66％が森林という、世界でも恵まれた森林大国です。寺社や宿坊が木造建築の普及に尽力できれば、日本の経済や観光面でプラスの効果を生むでしょう。

宿坊新規開設をご検討の寺社様・運営に関するお悩みを抱える宿坊様へ

サポート1 宿坊開設の計画・立案から、各種手続きなどトータルでサポートします。

サポート2 営業開始後も継続的に集客プロモーションなど運営についてもサポートします。

■お問い合わせ先

株式会社和空プロジェクト　〒530-0044　大阪市北区東天満1-11-13　AXIS 南森町ビル9F
TEL：06-4801-8211　FAX：06-4801-8221

監修：一般社団法人　全国寺社観光協会

堀内克彦（ほりうちかつひこ）
プロフィール

寺社旅研究家・
宿坊研究会代表。
「人生を変える寺社巡り」がテーマの寺社旅研究家。各地で寺社活性化・地域活性化の講演を実施し、寺院コンサルタントとしても活動中。著書に『宿坊に泊まる』(小学館文庫)、『こころ美しく京のお寺で修行体験』（淡交社）、『恋に効く！ えんむすびお守りと名所』（山と溪谷社）など。

特別連載②

数多くの寺社が集まる下寺町に宿坊を開設

地域との連携が不可欠な『宿坊創生プロジェクト』

日本文化に興味を持つ国内外の観光客に向けて「宿坊の魅力を知ってもらい、より多くの人に足を運んでもらう」ことをテーマに取り組んでいる、『宿坊創生プロジェクト』。その第1弾として始動したのが、大阪の寺町として知られる天王寺区下寺町に開設される宿坊「和空下寺町（仮称）」（※以下「仮称」略）。寺社文化を現代に伝えるべく誕生する都市型宿坊として、来春オープンを目指す。今年7月21日には、計画地にて「和空下寺町」新築工事の地鎮祭が執り行われた。設計・施工を積水ハウス株式会社が担当し、現在は着々と建設作業が進められている。

（上）「和空下寺町」の地鎮祭の様子
（中）大江連合大岸町振興町会会長を務める東辻健太郎さん
（下）下寺町の様子

お寺の連なる寺町で歴史と日本文化を感じる

建設場所となる下寺町は、南北1400メートル、東西400メートルの周辺エリアに約80の寺院が集中する、国内でも珍しい寺町。16世紀、豊臣秀吉が大坂城を築き、松平忠明が大坂城下の整理再編を行った際、大坂城の弱点といわれる南側に防御線として寺院を集中させたことにあり、そのうち最も南西に形成されたのが下寺町だと言われている。「和空下寺町」はそんな歴史ある寺町と融合した宿坊となることを目指している。

そこで下寺町のことをよく知る、大江連合大岸町振興町会会長を務める東辻兼太郎（ひがしつじけんたろう）さんに、今後「和空下寺町」と地域との繋がりを深め、どのような取り組みを行いたいかお話を伺った。

住民と「和空下寺町」が一体化した町作りを目指す

生まれも育ちも下寺町という生粋の下寺っ子である東辻さんが、5年前から町会長を務める大江連合大岸町というエリアは、通称「天王寺七坂」と呼ばれる清水坂など有名な7つの坂のうちの4つに隣接する閑静な住宅地。

「昔、この辺りは周囲のお寺で働く人が暮らす地域で、現在も古くからの住民が多い土地。そのためコミュニケーションも活発で近所同士の交流も比較的多いエリアだと言えるでしょう。しかし住民の高齢化に伴い、以前は盆踊りや大岸町フェスティバルという名のイベントを実施していたものの、現在は避難訓練や新年会などの行事が主となっています」と東辻さん。

「和空下寺町」の建設前には住民説明会を開き、地域の人にどのような施設なのか説明を行った。その結果、地域の人にも完成を待ち望んでもらえるようになったという。

「宿坊が完成した暁には、例えば月に1度でも住民が集まって文化的交流をしたり、地域と一体となってイベントを行う場となればと考えています。そのため町が主催する行事にも積極的にご参加いただければ嬉しいですね。また、ゆくゆくは災害時の避難場所など、下寺町のセーフティー空間としての機能も期待するところです。いずれせよ、地域住民の暮らしに溶け込み、かつ一緒になって地域を盛り上げる関係が築けることを願っています」

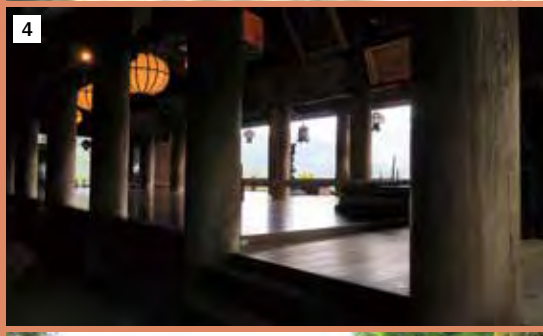
そんな下寺町に「和空下寺町」を建てることは、大きな意味を持つと考える。周辺の寺社や地域の方々と連携しながら様々な文化体験を行うことで寺社の魅力を伝え、地域全体が活性化するよう貢献して行きたい。

「和空下寺町(仮称)」の外観完成イメージ

【お問い合わせ先】
株式会社 和空プロジェクト
TEL 06-4801-8211
http://waqoo-pj.jp
監修：一般社団法人 全国寺社観光協会

風まかせ 11

野田博明



昇る狭霧やさざなみの志賀の都よいささらば

園城寺（大津市）の『寺門伝記補録』に境内にある三尾神社の祭神・三尾明神について興味深い話が載っている。近江国高島郡三尾里から流れ出した楠の大木が大津の浜に漂着し、その霊木の上に三匹の小蛇に化身した神が乗っていた、つまり、三尾里から明神さまはやってきたという話である。その霊木が生えていたという地に、死後、淡海公と追号された藤原不比等（藤原鎌足の子）が母堂のために創建したと伝わる長谷寺が建っている。本尊の十一面観音立像は霊木の根元から造られたものだという。そして、この霊木の譚には不思議なつづきがあるのである。

八十八ヶ所霊場の86番札所に志度寺（さぬき市）という古刹がある。そこに伝わる縁起絵図・『御衣木之縁起』は本尊の由来について、「近江国高島郡三尾の奥谷から流れ着いた楠の霊木から十一面観音を刻ませた」ことを描いている。また、藤原不比等・房前親子にまつわる海女の玉取り伝説も絵解きされている。謡曲や能で有名な「海女」の題材になっているものである。志度には不比等が住んだ淡海屋敷や房前の鼻という岬など藤原氏所縁の伝承地が今に残っている。さらに、奈良の長谷寺縁起文にもこの霊木との因縁が事細かく綴られている。本尊の十一面観音の御衣木（像材）となった霊木は近江国三尾から流れ出て幾所を巡り長谷郷に来たことや十一面観音と伽藍の造立に、当時、大和国班田勅使であった藤原房前が深く関与していたことが記されている。

近江の高島に立っていた楠が流れ出し、二百年もの星霜を経て讃岐の志度浦、さらには大和の泊瀬の地へ漂着。三尊の十一面観音が同じ霊木から生れ出た数奇な因縁が各寺の縁起により今の世へと伝わっている。しかも驚くことに、この四月、奈良の長谷寺が約百年前に購入していたという三尾里の土地に「高島は長谷信仰のふるさとである」として、『此付近　大和国長谷寺本尊御衣木流出歴渉地』と刻字した石碑を建立した。気の遠くなるような奇しき縁が人心の痩せさらばえた当世によみがえったのである。霊木と藤原氏との縁を伝える近江の三尾という場所はどういったところなのか。また、わたしの悪い癖、想像の翼は広がり、一躍、天翔けはじめたのである。

江戸後期の国文学者・橘守部という人物が著した「神楽歌入文」は意味深なことを語っている。近江の浅井家の記録に残された『近江国風土記』から引用したと思われる淡海の国号の由来である。引用文は「淡海の国は淡海をもって国号となす」と周知のことを記したあとに、「目の前に見おろす湖上の漣漪からきた『細浪の国』という別名があった」と述べている。記紀に当たってみると、なるほど神功皇后紀や仲哀記に「狭狭浪の栗林」や「沙沙那美」として大津市の西北一帯の総称として登場していた。一般的に近江は第38代天智天皇の御代、大津宮あるいは志賀の都ともよばれた王都がおかれたところ、大海人皇子（天武天皇）と大友皇子（天智帝の子）が皇位を争った壬申の乱の主戦場として知られているが、王朝の栄華をきわめた歴史は五年半ほどと余りに短い夢に終わった。しかし、記紀にあるように狭狭浪の国は上古の時代、神功皇后・誉田別皇子（第15代応神天皇）親子と異腹の兄たちと皇位をめぐる決戦の場として登場している。しかも、神

功皇后こと息長帯比売命は現在の米原駅、琵琶湖の東北部に威を張る有力豪族、息長宿禰王を父としており、一帯には日撫神社、山津照神社、福田寺といった息長氏と深いゆかりを有する社寺がいまなお存在している。

それから時代は下るが、応神天皇五世の孫として皇統をつないだ第26代継体天皇の生誕地が高島郡三尾の地であると日本書紀は述べている。三尾には父である彦主人王の別邸が建ち、そこに越前国から母・振媛を迎え男大迹（継体帝の幼名）が生まれたという。近在には四〇基を越す古墳が確認されているが、その最大のものが彦主人王の墳墓（田中王塚古墳）とされ、宮内庁の陵墓参考地として管理されている。また、付近には三尾神社の旧跡が残り、振媛が男大迹を出産するときに背を預けた凭れ石なるものを見ることができる。さらに振媛や継体帝の皇子（安閑天皇）、継体帝の両親などを祀る社など湧いて出るが如くに濃密な所縁を持つ神社や遺跡が数多存在している。

さて、琵琶湖という呼称は文献への初出が室町後期（16世紀初頭）とされ、古くは淡海の海、近淡海、細波などと呼ばれていたが、この淡海の海を制圧したものが古代国家の最高権力者たり得たといっても過言ではない。天皇の系譜を巨視的に俯瞰すると、皇統の流れが大きく変わったとき、即ち、応神王朝、継体王朝そして天武王朝の創始には必ず細浪の国をめぐって大いくさが展開されたことは先述したところである。そこで、本文のタイトルであるが、誰しもが知る名曲、琵琶湖周航の一節である。その抒情あふれる詩句のなかに淡海の国のもうひとつの物語があることを世の人々はあまり知らない。万葉集に柿本人麻呂の有名な一首がある。

「楽浪の　志賀の唐崎　幸くあれど　大宮人の　船待ちかねつ」。舟遊びで賑わった大津宮もいまは荒れ果ててしまったと落魄した旧都を哀しむ歌である。ここで万葉仮名の楽浪とは〝さざなみ〟と読み下すが、万葉集には志賀の都や大津宮など淡海の国に関する枕詞として使われ、十数首を確認できる。石川夫人の歌一首として、「楽浪の　大山守は　誰がためか　山に標結ふ　君もあらなくに」という歌がある。これは楽浪のひと言で淡海の情景を当時の人が瞼に浮かべなければ成り立たない一首である。大山守とは皇室所有の山林の番人のことで、この一語で近江を特定するのは不可能だからである。サザナミと読ませかつ淡海を意味する楽浪の暗号を未だわたしは解読できないでいる。少し古代史をかじった人は古代朝鮮半島に中国が置いた楽浪郡という地名に思いあたるのではないだろうか。淡海の海を最初に制圧した一族は楽浪からやってきた・・・その権力者のことを万葉人は当然のこととして記憶していた・・・。高島の三尾の山野を割いて流れる一級河川を安曇川と呼ぶ。読み方こそ違うが海人族の安曇族に因んだ名前であることは確かである。そして、一族の本貫の地は筑紫の志賀の島である。

かの司馬遼太郎はその著、『街道をゆく・湖西のみち』のなかで、「『志賀』に『楽浪の』という枕詞をつけてよばれるようになった」消息を少し違った観点から捉えているが、大同のところは大凡前述の話に落ち着くのではないかといまは考えだしている。藤原氏を中世日本の最高権力者へと導いた不比等と道長を輩出した藤原北家の始祖・房前が淡海の海から流れ出た霊木を媒介として皇統の大きな流れを変えた天皇たちとひとつの像を結ぶようで、志賀の都よいざさらばとはそう単純にはいかない。それにしても三尾の奥山からやってきた明神様とはいったいどなたであるのかうっすらとお姿は見えるようでもあり杳として見えぬようでもあり、謎は湖水の泡のように次々と湧いてくる楽浪の国の物語ではある。

6

7

8

1 園城寺仁王門
2 園城寺内、三尾神社拝殿
3 志度寺・藤原房前が建てた千基の海女の石塔
4 奈良・長谷寺本堂の内道場
5 天智天皇を祀る近江神宮・楼門
6 継体天皇の母と三尾氏の祖を祭神とする水尾神社（高島市拝戸）
7 琵琶湖と白髭神社・湖中の鳥居
8 奈良長谷寺による霊木流出歴渉地の石碑

野田博明（のだ・ひろあき）
昭和26年4月生まれの64歳。昭和50年3月、東京大学卒業と同時に日本興業銀行入行。広報部長・管理部長などを経て、みずほホールディングス監査役などを歴任、平成23年に退任。一般社団法人　全日本社寺観光連盟　理事。
趣味は神社仏閣巡りを兼ねた旅とグルメ。日本書紀など古代史が大好き。

四季巡り 華景色

毘沙門堂の紅葉

モミジ

【毘沙門堂について】京都市山科区安朱稲荷山町18
宗　派:天台宗
山　号:護法山
寺　号:出雲寺 毘沙門堂門跡
創建年:703(大宝3)年

撮影 原田 寛　鎌倉市在住。古都グラファーとして、日本全国の古都や歴史の街並みを中心に撮影活動を続けている。日本写真家協会会員。

紅葉シーズンの京都は、宿泊施設の予約に苦労するほど。市内の主要道路は交通渋滞も激しくなる。それでも、少し中心部をはずせば街中の喧噪が嘘のように寺社境内は静寂に包まれている。
山科区はそんな場所の一つだが、とくに毘沙門堂(びしゃもんどう)はじっくり紅葉狩りが楽しめる名所として知られている。雨上がりの早朝、参道は趣ある情景が広がる。毘沙門堂では毎年11月23日に千燈会に続き紅葉祭りが行われる。

寺社のみなさまのご要望にお応えして
広報活動をお手伝いします

プレスリリース（広報用資料）の受け付けを開始いたしました！

- 特別拝観や催し事（イベント含む）の開催
- 一般の方々に告知したい取り組み
- 他の寺社に告知したい取り組み
- 組織・人事の異動
- 新しい試み・事業
- 宿坊情報の掲載

など、貴社寺の情報を当協会までお送りください。

http://wa-qoo.com

http://jisya-now.com/

ウエブ10万PV※
Facebook5万いいね!※
雑誌発行部数
3万部で発信!

※グループ合計

情報誌・ウエブ版「寺社Now」、宿坊ポータルサイト「和空」、SNS、関連ウエブメディア に記事を無償で掲載いたします！

なお、諸事情で掲載ができない場合もございます。あらかじめご了承ください。

プレスリリースの資料や写真を下記までお送りください

※当協会から確認のご連絡をする場合がございますので、ご担当者のお名前、電話番号などの連絡先を必ずご明記願います。

郵便・宅配便で送付

一般社団法人　全国寺社観光協会　本部事務局
〒530-0044　大阪市北区東天満1-11-13　9F　TEL:06-6360-9838

e-mail で送信

info@jisya-kk.jp
※件名にプレスリリースとご明記ください

次号は
１月発行の
予定です。

監修
一般社団法人 全日本社寺観光連盟

発行人
一般社団法人 全国寺社観光協会

編集・制作協力
株式会社 関西ぱど

発行所
一般社団法人 全国寺社観光協会
（事務局）
〒530-0044
大阪府大阪市北区東天満１丁目11番13号
AXIS 南森町ビル 9F
Tel：06-6360-9838　Fax：06-6360-9848

寺社NOW
第１巻第11号　平成28年11月発行

本誌の表紙、記事、写真、イラストはすべて著作権法で保護されています。
本誌の許諾なしに複写（コピー）したり、印刷物やインターネットのWEBサイト、メール等に転載したりすることは違法となります。

バックナンバーのご案内

寺社の“いま”を伝える情報誌「寺社Now」は、全国の寺社に無償でお届けしています。

vol.7

◆巻頭特集
地域振興拠点としての寺社
◆インタビュー
日本政府観光局（JNTO）理事長
松山良一
第20期全日本仏教青年会理事長
東海林良昌

vol.8

◆巻頭特集
地域の行政や組織と連携する寺社

◆インタビュー
大阪天満宮宮司
寺井種伯

vol.9

◆巻頭特集
寺社を中心とした街づくり
近年活気付く門前町の活動

◆シリーズ：地域と霊場会
びわ湖百八霊場

vol.10

◆巻頭特集
建築物の耐震について考える

◆インタビュー
東北観光推進機構会長・
東日本旅客鉄道取締役会長
清野智

バックナンバーはWEBでもご覧いただけます。

jisya-now.com または　寺社NOW　検索

本誌の記事に関するお問合せは右記にお寄せください。

一般社団法人　全国寺社観光協会　本部事務局
〒530-0044　大阪市北区東天満 1-11-13 9F
TEL：06-6360-9838　FAX：06-6360-9848　e-mail：info@jisya-kk.jp

より良い誌面作りのため、寺社の皆様の貴重なご意見をお聞かせください！

寺社Now 誌面アンケート

「寺社Now」ではより良い誌面をつくるために誌面についてのアンケートを実施しております。下記のアンケートの□内には✓を、(　　)内にはご記入をいただき、下記まで本紙をファックスもしくは左のハガキ(切手不要)にてお送り願います。

Q1. 所属

□寺院　　□神社

Q2. 今月号で面白かった記事はどれですか(複数回答可)　※丸数字に○を記入

①巻頭特集:登録有形文化財建造物制度　②第2特集:インバウンドに向けた新たな観光サービス　③TOPICS:寺社向けの新たな観光サービスを実現するICT　④職人技:美山茅葺株式会社　⑤クローズアップ:臨済宗天龍寺派大本山天龍寺 塔頭永明院 住職　國友 憲昭　⑥日本遺産と寺社:鳥取県三朝町×三徳山三佛寺　⑦活性人:株式会社朱鷺書房 代表取締役　嶝 牧夫　⑧トレンドNow:下鴨神社とチームラボが初コラボ 世界遺産が光のアート空間に／伊奈波神社と老舗米菓子製造会社が奉納塩を使ったクッキーを発売　⑨行政・観光リポート:日本版DMO候補法人に「知多半島観光事業協会」が登録　⑩うちのお宝:喜多院 五百羅漢／箭弓稲荷神社の社殿　⑪全国寺社イベント:曹洞宗・夏期大学講座「禅といま」　⑫和空presents 宿坊運営ノート:行学院 覚林坊　⑬宿坊研究会レポート:寺社や宿坊が木造建築普及の担い手に　⑭特別連載:地域との連携が不可欠な『宿坊創生プロジェクト』　⑮野田博明 風まかせ:昇る狭霧やささなみの志賀の都よいささらば　⑯四季巡り 華景色:毘沙門堂の紅葉

Q3. 以下の項目で、寺社の取り組みの事例として知りたいものはどれですか(複数回答可)

□観光　□外国人対応　□宿坊新規開設・運営　□寺社イベント　□広報　□地域振興　□結婚式　□後継者育成　□土地活用
□その他　(ご記入ください:　　)

Q4. 今月号の記事、広告を見て実際に問い合わせた、もしくは興味を持った内容があれば教えてください。

(広告を見て問い合わせた、あるいは興味を持ったところの会社・団体名:　　)

Q5. 以下の項目で、知りたい企業サービスはどれですか(複数回答可)　※丸数字に○を記入

①ホームページ　②SNS運用代行　③アプリ開発　④告知ツール制作(掲示物・ダイレクトメール・冊子・チラシなど)
⑤フリーWiFi　⑥自販機設置　⑦喫煙所設置　⑧清掃　⑨老朽化・耐震対策　⑩警備　⑪保険　⑫介護施設
⑬託児所　⑭土地活用　⑮資産運用　⑯税金対策
⑰その他　(ご記入ください:　　)

Q6. 寺社Nowへのご要望・ご感想など

(ご記入ください:　　)

寺社Nowのバックナンバーおよび、寺社Nowの継続購読をご希望の場合は、
下記の内容をご記入の上(□内✓をお願いします)、FAX送信してください。

□バックナンバー希望　ご希望のバックナンバーの号数に○をご記入ください ※複数可　　□継続購読希望
(Vol.　1　2　3　4　5　6　7　8　9　10)

寺社名		氏名	
ご住所	〒		
お電話番号			

＜FAX＞06-6360-9848

【個人情報の取り扱いについて】
ご記入いただいた個人情報は寺社Nowや同誌バックナンバーの発送および全国寺社観光協会からのご連絡以外には使用しません。

キリトリ線

マンション

商業施設

賃貸住宅
「シャーメゾン」

積水ハウスの土地活用

オフィス

高齢者向け
住宅

クリニック

土地を活かす。地域が活きる。

土地活用とは、土地の価値を地域に活かすこと。積水ハウスは、住宅のリーディングカンパニーとして培ってきた総合力で土地の可能性を引き出してきました。入居者の多様なニーズに対応する賃貸住宅「シャーメゾン」や高級感あふれる中高層マンション、時代が求める高齢者向け住宅など、地域貢献につながる土地活用を積水ハウスがご提案します。

SEKISUI HOUSE

積水ハウス株式会社 大阪特建支店

〒531-0076　大阪市北区大淀中1-1-93　梅田スカイビルガーデンシックス4F

特建くん
©積水ハウス2005

土地活用に関するご質問やご相談についてもお気軽にどうぞ。

0120 FreeDial 0120-131-470

大阪特建支店　検索

資料をご希望の方は、フリーダイヤルでご請求ください。
ホームページからもお申し込みいただけます。

積水ハウスの賃貸住宅
「シャーメゾン」総合カタログ

積水ハウス大阪特建支店 実例集
「Best Solutions」

寺社Now Vol.11

寺社Now
【監修】一般社団法人 全日本社寺観光連盟 【発行】一般社団法人 全国寺社観光協会 （事務局）〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満1丁目11番13号 AXIS南森町ビル9F Tel: 06-6360-9838 Fax: 06-6360-9848

挑戦の数だけ、保険がある。

保険は、冒険から生まれた。
大航海という挑戦を助けるために、
勇気をつくるために、
保険は生まれた。

さあ、挑戦しよう。
人は何かを始めることで前へ進み、
世界は新しく変わってゆく。
不安も、きっとあるだろう。
でもそれは、分かち合うことで軽くなる。

世の中には2種類の人がいる。
挑戦する人、しない人。
充実した人生を送るのは、
どちらの人だろう。
人から愛され尊敬されるのは、
どちらの人だろう。
世の中を変えていくのは、
どちらの人だろう。

私たちはすべての挑戦を応援します。

To Be a ***Good Company***

東京海上日動

JAPAN
TOKIO MARINE NICHIDO
JOCゴールドパートナー（損害保険）